

学校名 (児童数)	長浜市立びわ南小学校 (291人)
--------------	----------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：長浜市川道町 3456

電話番号：0749-72-2003

**【研究の目的、研究内容】**

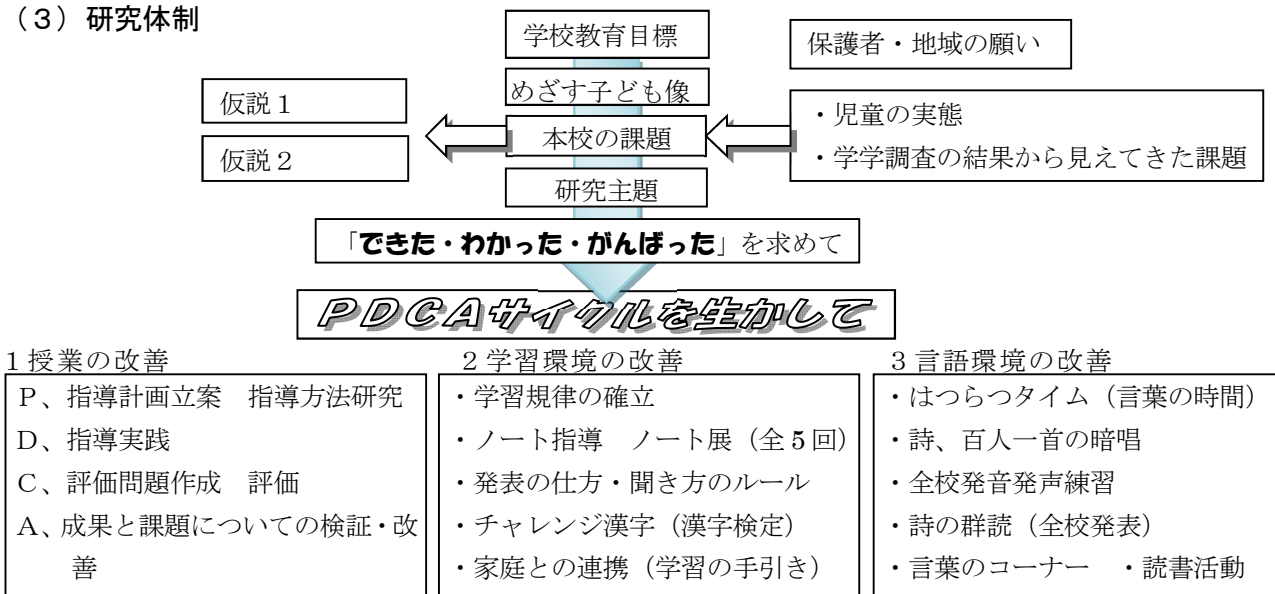
**(1) 研究主題**

自分の考えや思いを持ち、自信を持って表現することのできる子どもの育成  
～基礎基本の定着と既習事項を生かして思考力・表現力を伸ばすために～

**(2) 研究主題設定の理由**

本校の児童の現状（友達と話すことは好きだが、改まった場では声が小さくなったり、自分から話したりすることが苦手。また素直で指示されたことは最後までやり遂げるが、自主性・自立性に乏しく人権意識が低い）に、全国学力・学習状況調査の結果から見えてきた課題（目的や条件に応じて資料を選択し、正確に読み取る力が弱い。読み取ったことをもとに、自分の考えを論理的に表現する力が弱い。）を考慮し、子ども達が自分の考えや思いを、自信を持って表現できるようにすることを研究の柱に据えて進めることとした。

**(3) 研究体制**



**(4) 1年間の主な取組の経過**

- ・ 4月21日（火）全国学力・学習状況調査
- ・ 4月22日（水）～27日（月）全国学力・学習状況調査自校採点
- ・ 5月25日（月）校内研究会 本校の課題より研究の方針決定  
年間指導計画・指導事項毎の見直しと単元を貫く言語活動の見直し
- ・ 6月10日（水）第1回授業研究会 特別支援学級生活単元学習・自立活動  
「合格レシピをつくろう」
- ・ 6月11日（木）～13日（土）第1回ノート展
- ・ 6月23日（月）第2回授業研究会 5年国語科（「広がる、つながる、私たちの読書」）  
「いちおしの本を紹介しよう」

- ・ 7月16日（木）～21日（火） 第2回ノート展
- ・ 夏休み中 評価問題検討会
- ・ 10月15日（木）第3回授業研究会 3年国語科（「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつ教えます」）  
「へんしんする食べ物のリーフレットを作って説明しよう」
- ・ 10月14日（水）～16日（金） 第3回ノート展
- ・ 10月28日（水）第4回授業研究会 2年国語科（「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」）  
「わかりやすくせつめいしよう」～おもちゃの作り方～
- ・ 11月11日（水）第5回授業研究会 6年国語科（「鳥獣戯画を読む」「この絵私はこう見る」）  
「ぼく・私の『鳥獣戯画』物語を作ろう」
- ・ 11月14日（土）全校音読発表会
- ・ 11月16日（月）第6回授業研究会 4年国語科（「アップとルーズで伝える」・「クラブ活動リーフレットを作ろう」）  
「見学したことをもとに〇〇の仕事を紹介するリーフレットを作ろう」
- ・ 12月16日（水）～18日（金） 第4回ノート展
- ・ 1月12日（火）第7回授業研究会 1年国語科（「たぬきの糸車」）
- ・ 「おはなしのこぼこで大好きな本を年長さんにしょうかいしよう」

#### （5）具体的な研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等

##### ○年間指導計画 指導事項毎の見直し

昨年度「B書くこと」「C読むこと」に視点を絞って重点項目の洗い出しを図り、年間計画の見直しを実施した。また、児童につけたい力が明確になるよう単元構成の見直しを図り、つけたい力にぴったりあった「単元を貫く言語活動」はどのようなものが良いかを考え、見直しをしてきた。本年度もつけたい力を明確にし、それぞれの単元構成・指導事項の見直しを進めてきた。

##### ○PDCAサイクルを生かした授業実践

今年度は授業の展開部（第二次）の単位時間内に発展部を入れ込む方法（入れ子構造）と学習教材→自分の選んだ本→教材→と交互に進める方法（ABワンセット方式）のどちらかを学年の発達段階に応じて使った実践を進めてきた。また、授業の中で見えてきた成果と課題を次の授業に生かせるよう構成や教材研究を行った。

##### □第2回授業研究会～第7回授業研究会で見えてきた課題と成果

##### <成果>

- ・単元の流れを子ども達の目に見える形で示していくことで、今自分たちは何のために何を学習しようとしているのかを明確に示すことができた。
- ・単元のめあてと、本時のめあての2つを毎時間ごとに意識させることができた。
- ・授業の始めのモデリングが子どもたちの意欲をかき立てたり、文章を書くときの参考になったりした。
- ・目的意識がはっきりしていることと、書き方の手順がしっかり見えていること（入れ子方式・ABワンセット方式）で、書きたくてうずうずしている子や「書けた」という満足感を持った子どもが多かった。
- ・交流の持ち方を工夫したことで、意欲的に交流しアドバイスし合うことができ、困ったときには自分から助けを呼ぶことができていた。また、つけたい力に合った交流ができ

るようになってきた学年が増えてきた。

- ・付箋を用いたり、書く部分の工夫をしたりすることは、どの子にも書ける方法として有効であった。

#### <課題>

- ・調べ学習では選書が難しい。司書さんへのオーダーの仕方を考える必要がある。
- ・本当に自分の「いちおしの本」「おきに入りの本」等が選べていない児童は本単元の活動が十分やりきれておらず、日頃の読書活動の推進と関わらせて並行読書のあり方をもっと考えていく必要がある。
- ・並行読書材のリストアップをしておく次の学年に役に立つ。
- ・交流すること、話し合うことの必然性が出てくるようにすることが必要である。発達段階に応じた交流のあり方をさらに考えていくことが重要になる
- ・教科書を資料として扱うときの有効な手立てを考えることが重要である。

#### ○学年毎に評価問題作り

授業研究を行った後、特別支援学級を除く5学年で（4年生の評価問題は県の調査部会で作成したものを使用）昨年の評価問題をベースにして本年度の本校独自の評価問題を作り、その結果を検証して、さらに各学年の課題の洗い出しを行った。

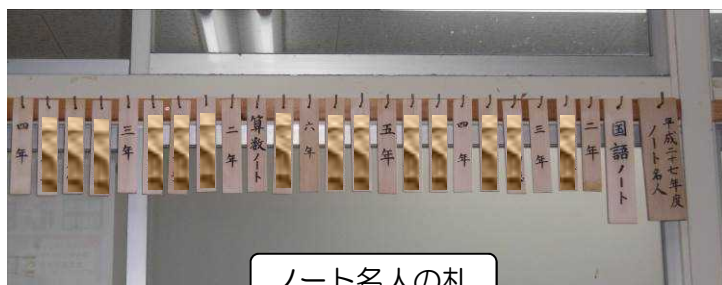
#### ○話し方・聞き方・ノートの取り方のルール作り



話し方・聞き方・ノートの取り方のルールと教室掲示は昨年度と同じ。

#### ○ノート展

- ・ノート指導の10か条（昨年と同じ）。
- ・1学期2回 2学期2回 ノート展を行った。
- ・国語科のノートとそれ以外のノートで優秀賞・努力賞を決め、前者は職員室前廊下に、後者は各学年ワークスペースに3～4日間展示し、児童には表彰状を与えた。
- ・何回か優秀賞を取った児童には名人証を授与し職員室前に名人の札を掲示し、各学年のワークスペースで名人賞コーナーに展示した。



ノート名人の札

#### <成果>

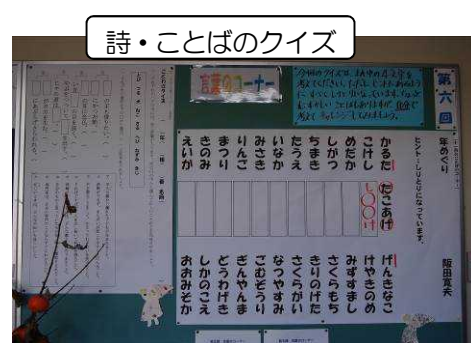
- ・子ども達自身が分かりやすいノート作りを目指すようになった。
  - ☆1時間の学習の流れが分かるような書き方の工夫
  - ☆自分の考えや友だちの考えを入れてまとめる。
  - ☆与えられた条件に合わせて書くことに慣れてきた。
- ・異学年の児童のノートを目にすることで、あこがれと自信を持つことができた。
- ・教師の学習計画や板書計画も充実してきた。
- ・参観日や懇談会のときに行ったので保護者の関心も高くなった。



ノート展

#### ○「言葉のコーナー」の設置（年間8回程度）

- このコーナーも3年目を迎える。子ども達が自分の考えや思いを持ち、自信を持って表現する力を育成するための一つの方



法として取り組んできた。学年の枠を越えて全児童が同じ「詩」や「俳句・川柳」の課題に楽しく取り組む活動は定着し、子どもたちの表現力は目に見えて向上してきた。

- 「詩のクイズ」のコーナーには昨年度より「言葉のクイズ」のコーナーを併設し日頃なじみのない「ことわざ」や「四字熟語」等をクイズとして取り上げることで、子ども達により身近に感じさせるようにし、様々な表現方法に触れる機会を意図的に設けてきた。

## 【研究成果と課題】

### (1) 研究成果

- それぞれの学年が子ども達に付けたい力を明確にし、付けたい力にぴったり合った「単元を貫く言語活動」は何かを考え、設定して授業を仕組むことができた。
- 学年の発達段階に応じて、入れ子構造の授業や、A B ワンセット方式の授業形態を取り入れ、子どもたちの、「書きたい」「書ける」という思いを大事に、学習を進めることができた。
- 学習中の交流では、何のために交流するのかをはっきりさせ、自己アピールの方法を工夫して交流に臨むことができ、その結果自分の文章がより良くなるような、また困っている友達にはアドバイスができるような交流ができるようになってきた。
- 授業後、本校独自の評価問題を作り、その分析を行い、課題を洗い出し次へつないでいくことができた。
- 記述式の問題に対して、子ども達の無解答が大変少なくなった。
- 「書く」ことに対する抵抗感が少なくなってきた。
- 学学調査の結果でも昨年度と同様に記述・書く・活用の力が伸びてきていることが認められる。
- 「言葉のコーナー」の、川柳や俳句、五行詩の応募状況はH25 年度平均 56%、H26 年度平均 70%、平成 27 年度 82.6%と年々伸び、児童は着実に書くことに意欲的にまた楽しんで取り組めるようになってきた。
- ノート展を続けることで児童のノートはどんどん向上し、教師の意識も変革向上してきた。
- 図書館司書との連携により、子どもたちの欲求に応じた本を準備することができた。

### (2) 課題等

- 文を構成する要素の理解が弱い。文法の学習（主語・述語等）を適宜取り入れていく必要がある。
- 聞き方にはいろいろな聞き方があることを、これからの授業の中で取り扱っていく必要がある。
- 文章を引用することの意味は理解しているが、引用と聞くと「」でくくられている文言であると短絡的に理解してしまっている子がいて、きめ細かな指導をする必要がある。
- 学校独自で作成した評価問題のさらなる見直しをする必要がある。
- 交流の目的が見えてきて、少し意欲的に交流ができてきた子どもたちに、さらに活性化できるようにするための方策を考えていく必要がある。
- 自分のお気に入りの一冊に出会えるよう図書館司書との連携をさらに進めていく必要がある。

### Fコンパスによる項目別正答率

